

概要

- 令和5年4月に管内の大規模酪農家が廃業された。規模拡大をかねてから希望されていた北栄町のA牧場が、廃業された牛舎を賃借すれば、初期投資を大きく抑えつつ規模拡大が可能になると考えられた。
- そこで、普及所は、関係機関と連携しA牧場の牛舎移転を支援した。
- その結果、**想定していた3億円より安価な7千万円で牛舎移転**することができた。また、廃業農家から**牛舎・ほ場等を継承し、規模拡大する1事例**ができた。今後、A牧場は、増頭しつつウモロコシほ場の増収を目指すので、経営が安定するまで経営検討会を実施し、支援する。

具体的な成果

1 規模拡大と牛舎移転

- 令和5年**12月19日**に牛舎移転できた。
- 牛の導入費については、令和6年1月には調達でき、令和6年5月現在経産牛68頭規模となり、令和6年9月には75頭規模になる見込み。
- 機械設備費の資金については、令和6年7月に確保できる見込み。

2 牛舎所有者からの継承（牛舎、機械、土地）

- 中古牛舎を賃借することで想定より安価で牛舎移転ができた。
- 牛舎賃借に係る契約を締結すると共に農業機械は購入することとなった。
- ほ場も継承することができ、令和6年はトウモロコシの作付面積が**1.5倍の15ha**を計画している。

3 飼養環境改善

- 搾乳牛の事故防止のため、**移転先牛舎に滑り止めを施工**した。
- 搾乳牛の**BCS**（BCS：ボディーコンディションスコア：体脂肪の蓄積の程度を判定する指標で数値が小さいほど牛が痩せている）が**改善**された。
- 飼料設計について、移動後の2月にタンパクを多く含むように**給与飼料の変更**を実施した。
- 移転後のストレスもあったが、**乳量が増加した**。令和5年1月 23.5kg→令和5年3月 29.6kg

4 飼料作物の収量確保

- 土壌分析の結果を基に施肥量を見直し、**苦土石灰15kg/10a**が追肥された。
- 令和5年の県内のトウモロコシの収量が3～4割減の中、昨年と同等の収量が確保できた。

普及指導員の活動

令和元年

- **A氏の牛舎の新築移転について見積もりを依頼、経営状況を確認**

令和4年

- A氏の過去の決算データから根拠データを作成し、経営検討会を実施した

令和5年～

- 管内の大型酪農家とA氏をマッチングし、A氏に中古牛舎へ移転し、規模拡大することを提案
- 移転先牛舎所有者との調整
- 牛舎・機械・ほ場の現地確認と助言
- 経営計画の作成支援、経営検討会の開催
- 牛舎等の賃貸契約の締結
- 牛舎移転



A牧場経営検討会

普及指導員だからできたこと

- ・ 月に1度経営検討会を実施しており、過去の決算データから経営計画の作成支援がスムーズにできた。
- ・ 規模拡大に必要な関係機関を普及員がコーディネートし、現地確認会や経営検討会を実施することで、牛舎所有者との調整ができた。

酪農担い手農家への支援 ～A 牧場の規模拡大を目指した牛舎移転支援～

活動期間：令和元年度～（継続中）

1. 取組の背景

東伯農業改良普及所管内は県内の約 4 割にあたる 38 戸が酪農を営んでいる酪農地帯である。他地区と同様に酪農家戸数は減少傾向であるが、規模拡大する農家により総飼養頭数の減少を補っている状況である。普及所は、規模拡大する畜産農家の経営計画作成等の支援を中心に活動している。

北栄町の A 牧場は経産牛 35 頭の中規模経営であるが、牛舎が昭和 40 年代に建設されたもので、作業性、飼養環境及び立地条件等に問題がある。令和元年から牛舎の新築移転による規模拡大を検討してきたが、牛舎建設等の初期投資額が大きいことが判明したため、やむを得ず、現牛舎の改修で対応する方向として再検討していた。そのような中、令和 5 年 4 月に管内で経産牛 80 頭規模の大型酪農家が廃業することとなった。A 牧場がこの廃業となった牛舎を賃借すれば、初期投資を大きく抑えられるとともに、飼養環境の良い牛舎に規模拡大が可能になると考えられた。

2. 活動内容（詳細）

- （1）牛舎移転及び規模拡大に係る経営計画の作成支援を行い、増頭計画、借入金額及び資金繰り等を明確にした。
- （2）移転先の牛舎所有者との調整（牛舎賃借に係る契約、農業機械等の購入額等）をするため個別聞き取り、検討会及び現地確認等を行った。また、ほ場についてマップを作成し、円滑な継承を支援した。
- （3）搾乳牛の事故防止のため、移転先牛舎に滑り止め加工をするよう助言した。また、搾乳牛のコンディションを改善するため、大山乳業と連携して毎月 1 回母牛の栄養状態確認を行い、飼料給与等について助言すると共に移転後の飼料設計を全酪連に依頼し、計画乳量を確保できる飼料設計への変更を支援した。
- （4）飼料用トウモロコシ増収のため、播種前に土壌分析を実施し、施肥設計の助言を行った。

3. 具体的な成果（詳細）

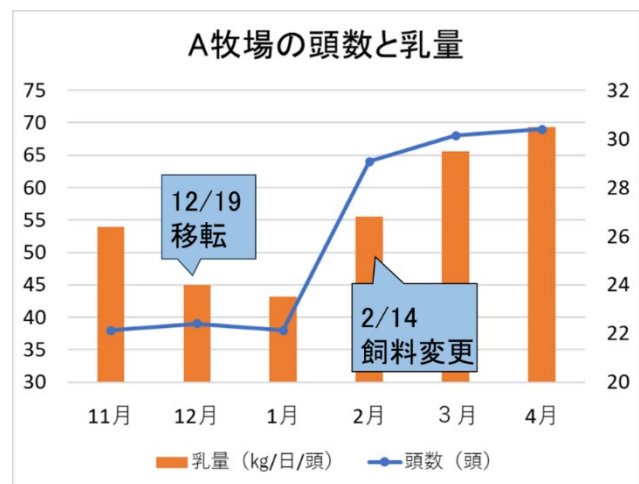
- （1）規模拡大と牛舎移転に必要な資金調達ができ、令和 5 年 12 月 19 日に移転となった。令和 6 年 5 月現在では 68 頭規模となり、令和 6 年 9 月には 75 頭規模になる見込み。
- （2）中古牛舎を賃借することで想定より安価で牛舎移転ができた。牛舎賃借に係る契約を締結すると共に農業機械は購入することとなった。ほ場も継承することができ、令和 6 年はトウモロコシの作付面積が 1.5 倍の 15ha を計画

している。

- (3) 搾乳牛の事故防止のため、移転先牛舎に滑り止めを施工した。また、搾乳牛の BCS が令和 4 年平均 2.68→令和 5 年 11 月平均 2.94 と改善した。(BCS : ボディーコンディションスコア : 体脂肪の蓄積の程度を判定する指標で数値が小さいほど牛が痩せている) 飼料設計について、移動後の 2 月に不足したタンパクを補った給与飼料に変更を実施した。令和 5 年 2 月までは、移動後のストレスもあり乳量が増加しなかった (1 日当たりの 1 頭の乳量が 26.8 kg) が、3 月には乳量が増加(1 日当たりの 1 頭の乳量が 29.6 kg)した。
- (4) 土壌分析の結果を基に施肥量を見直し、苦土石灰 15 kg/10a が追肥された。令和 5 年の県内のトウモロコシの収量が 3~4 割減の中、昨年と同等の収量が確保できた。令和 6 年は、令和 5 年の土壌分析を受けて苦土石灰をほ場に施肥し、土壌改善を継続して実施する。



滑り止め (黄色枠部分)



A 牧場の頭数と乳量のグラフ

4. 農家等からの評価・コメント (北栄町 A 氏)

想定していたより安価で大規模な牛舎に移転ができてよかった。移転からしばらくは移転の影響で乳量が落ちてしまったが、毎月開催される検討会で普及所、関係機関と給与飼料の変更の助言があったことで、乳量が増加した。今後は、借入金計画通り返済できるように支援して欲しい。

5. 普及指導員のコメント (東伯農業改良普及所・改良普及員・本間香帆)

かねてから規模拡大を希望をされていた A 氏が規模拡大ができてよかった。今回の規模拡大で、周辺農家からも規模拡大・移転についての相談をされる機会が増え、波及効果も大きいのではないかと感じる。今後、今回の事例をモデルとして他の事例でも扱えるように活動していきたい。

6. 現状・今後の展開等

- (1) 牛舎移転後に増頭や乳量等が計画通りに達成されているか、定期的に検討会を実施して確認する。
- (2) 規模拡大に伴い飼料作物の作付面積が増加するが、ほ場作業の遅延が発生しないよう作業体系の調査を行い助言する。また引き続き土壌分析を実施し、適切な施肥量を示すことによりトウモロコシの増収を目指す。